

### 1 自己評価及び外部評価結果(1ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101335		
法人名	有限会社 大垣ケアサービス		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	岐阜県大垣市林町8丁目69		
自己評価作成日	平成21年7月20日	評価結果市町村受理日	平成21年10月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172101335&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172101335&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあおぞらでは利用者の尊厳について職員全員で取り組んでいます。認知症高齢者との関わりの中で本人からのサインや家族等からの情報をもとに利用者が自分らしく生活できるよう、また「利用者の自己決定」を第一とし、柔軟な個別対応サービスの徹底に努めています。具体的にはグループホームという生活の場が利用者にとって常に自由な空間であるよう、自由な時間に入浴や食事ができるなど、個々の生活リズムやスタイルに合わせたサービス提供を心がけています。そして、利用者の意思を引き出す姿勢を常にもった支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「助け合って生活していた昭和時代の長屋の生活を利用者本人が作り上げるお手伝いをする」「日常のおつきあいを大切に」という気持ちで、一人ひとりに合った自然で柔軟なケアに取り組んでいる。職員は家族からの情報を基に、入浴時等の場面でゆったりとした会話の中から利用者の想いを把握し、職員間の情報を共有したケアの統一に努めている。利用者本人が入居前からの関係を継続できるよう支援し、ホームも地域との繋がりを大切にしている。「いつまでもその人らしさを大切に」を理念に、職員全員で取り組んでいるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームあおぞらの理念を掲げ、意義や、社会的役割を確認し、話し合いにおいては具体的なケアについての統一を図っている。	管理者と職員が「いつまでもその人らしさを大切に」というホーム独自の理念をつくり上げ、利用者一人ひとりの個性を尊重したケアが実践している。理念に基づいたケアになるよう毎月の会議で話し合い共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに参加している。日常的に散歩や買い物等に出かけ地域の人たちと挨拶を交わしたり、地域の人が慰問に来てくれている。	高校生の体験学習や吹奏楽部の演奏をホームで行ったり、自治会のお祭りや清掃活動に参加して地域住民の一員としての役割りを担っている。ゴミ出しや散歩、買い物時に地域の人と挨拶を交わす『日常的なおつき合い』を大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への認知症ケアの啓発に努めている。地域内の学校の実習の受け入れや訪問の受け入れをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では参加メンバーから意見、要望を率直に述べてもらい話し合いをしている。現在取り組んでいる内容においても報告や意見交換を行っている。	二ヶ月毎に利用者や家族・地域包括支援センター職員・民生委員が参加した会議を開き、現在の取組の状況を報告をし意見交換を行い、出された意見を話し合っているが、サービスの質の向上まではいたっていない。	地域資源の中の地域密着サービスであるホームが、理念や役割の必要性を会議を通して話し合い、さらなるサービスの質の向上に繋げていただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行政に足を運び、疑問も含め担当者と話をして連携を深めている。	担当者に定期的にホームの現状や制度上の疑問、問題の相談を積極的に行っている。運営推進会議への出席を依頼し連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を話し合い、利用者が外出する雰囲気であれば声かけをしたりついていくなど自由な暮らしとなるよう支援している。	身体拘束をしないケアを当たり前として十分な見守りと声かけを行っている。一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで自由な暮らしを支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等の場において、虐待防止について学び不適切なケアについて常に話し合い確認をしている。また、虐待を発見した時の対応についても話し合い確認している。		

グループホーム あおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに担当者からの説明やアドバイスをもらいながら利用者の支援に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に丁寧に説明を行い、同意を得るようにしている。また、一方的な通達にならないよう心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には運営推進会議時や訪問時などに意見が出やすい雰囲気づくりに気を配っている。出された意見においては会議時に話し合っている。	利用者家族の心情を察し、会議や訪問時に常に問いかけ、言いやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等については検討し、速やかな対応をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけるとともに、決め事や方針の変更等においては会議時において皆で納得した上で決定している。	職員からの運営に関する意見や提案にも速やかに話し合いの場を設けて検討している。ケア方法の変更については細部に至るまで全職員が把握するように徹底している。夜勤者も必ず会議に出席し全職員で話し合い、運営にも反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も頻繁に現場で利用者や職員とコミュニケーションを図っている。また、今年度より職員の給与と体系の整備を行い条件の向上に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には1ヶ月のOJTのプログラムを組み実践している。また、事業所外での研修への参加を積極的に促し報告書を全スタッフは閲覧できるよう整備している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所への見学等を通してケアの技術面を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用時や相談があった時には必ず本人に会い、心身の状態の把握に努めている。あまた、利用時には直接本人との話と通じて要望等を引き出すことに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族が困っていることや求めているものを話し合い理解し、グループホームでの対応できる範囲も含めて、話し合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提供できるサービスにおいては、迅速に対応し、外部のサービスが必要と思われる内容においては利用者・家族等と相談し柔軟なサービス提供に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員全員で共有しており、尊厳のある声かけやサービス提供の徹底を図っている。また、徹底事項を定め、常に守られているかどうか会議時に確認を行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に家族の思いを受け止め、また利用者の様子や事業所の方針を細かく伝えている。また、協力関係が築けるよう情報の共有に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人等との電話や訪問を支援したり、一人一人の生活習慣を大切に、つながりを継続できるよう支援している。	利用者のこれまでの生活習慣を大切に、馴染みの方や場所への訪問支援や入居前のご近所づきあいが継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の仲の良し悪しに配慮し、利用者が孤立してしまわないよう支援している。また、皆で楽しめる場面作りに職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい環境でも、これまでのケアが継続できるように情報の提供をおこない、きめ細かな連携に心がけている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からのお話を聞き、又 本人にも相談しながら最良の暮らしを検討している。意思の疎通の困難な方であっても表情や態度により思いを理解しようと努めている。	入浴時など利用者がリラックスしている時にゆったりとした会話の中から本人の希望や思いの把握に努めている。本人が納得するまで話を聴き、思い出してもらい取り組みをしている。日々の表情や態度から想いを汲みとる支援に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から話を聞いたり、断片的な本人のお話より利用者の生活歴を考え、思いの理解に役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の共同生活で役割への促し、又その時の表情、態度より、性格、性質、心身状態をつかみ 本人の心身の状態を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や運営推進会議の度に認知症の方への関わり方について話し合い、日常での関わり方についても相談している。	利用者本人や家族の意見を取り入れ、職員・関係者が話し合い、個別の介護計画を作成している。家族からの申し出、病状等の変化時に見直し、現状に即した計画を立案している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を記録し、特に利用者の思いを捉えた記録ができるよう心がけている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や買い物など柔軟な支援に心がけ、対応している。		

グループホーム あおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、支援に関する情報交換をしたり、ボランティアの方による活動やなじみの美容院へ行くなど、地域の人や場の力を活用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医院の他に診療科によっては適切に本人の希望の医療が受ける事ができるようにしている。	本人や家族は事業所の協力医の月2回の往診に満足・信頼している。家族の承諾を得て職員が通院介助することもあり、入居前のかかりつけ医と協力医・職員・家族との連携も図れている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員により利用者の健康管理や状態変化について助言・対応を行っている。また、往診時には利用者の状態についての会議を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時は頻繁に病院へ見舞い、状況を常に把握し、家族とも状況について相談している。又 退院時には速やかな連携により施設での生活に役立て、退院後の診察(往診)などの依頼をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意思確認書を作成し、事業所ができること、家族が支援することなどを話し合っている。また、早期の段階で話し合うなど意見の統一を図っている。	契約時に医療連携体制やホームが行う看取りに関してを話し合い、同意を得ている。また、その時や状態の変化時に職員等関係者と情報を共有し支援する体制が出来ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着するまでの応急処置等について、ケースを想定し話し合いを行っている。また、応急手当講習テキストに基づいて職員は対応方法を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用方法などを行っている。	消防署の協力を得て利用者の身体的能力を考慮し、年2回の避難訓練を行っている。災害時の備蓄品も準備し、近隣の大型薬品店などの協力を得て、2ヶ所の避難場所も確保しているが、近隣の人達の協力を得られるまでは至っていない。	地震など自然災害に備えて昼間や夜間を想定し、地域の人達の協力を得られる体制づくりを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア全般に本人の意思が反映されるように声かけや表情の確認をし、又言葉使いや態度が本人を傷つける事の無いよう配慮している。会議等では尊厳について毎回話し合いが行われている。	毎回の会議で『尊厳』について話し合いが行われている。職員は利用者に対して「絶対に怒らない」ことを申し合わせ、言葉遣いや態度に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて、本人が選びやすいよう働きかけている。難聴の方には筆談にて意思の疎通を図る等、自己決定できる環境作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設でのイベントごとやボランティアの訪問は施設が予定を組んでいるが、参加の意思は本人の意思を尊重している。日常生活全般に、入浴や食事、散髪等であっても本人の意向に沿ったサービスが提供できるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容、服装、頭髪など身だしなみへの促しをし、他の利用者や職員に対して、良い意味での緊張感が保てるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑作業にて採れた農作物など使いながら、一人一人の好みにも配慮し準備、食事、片付けなど共同作業をしている。	決まった献立表は作らず、その時々食材や利用者との会話の中から食事メニューを決め、利用者と共に収穫した野菜を臨機応変に調理している。また、準備・食事・片付けなど職員と会話を楽しみながら行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認をし、水分、栄養バランス等を体調をみながら支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	理解力の低下した利用者さんには精神的な配慮をしながら口腔ケアをしている。		

グループホーム あおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心への配慮をしながらトイレでの排泄に努力しているが、リハビリパンツやパットを使い排泄が困難な方への安心感にも配慮している。また、定期的なトイレ誘導をすることにより、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し時間や習慣を把握し、定期的にトイレ誘導している。リハビリパンツやパットを一人ひとりに合わせた使い方で失敗を減らしたり、自尊心を傷つけないよう配慮し、自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事内容、水分補給量、歩行運動に配慮し健全な状態の維持をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	朝風呂や夜間入浴等本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴出来るよう対応をしている。入浴中は介助だけでは無く、入浴が楽しいものとなるよう、昔話や思いを話しやすい雰囲気作りに努力している。	利用者一人ひとりの希望に合わせて朝と夜一日2回の入浴にも時間を調整して対応している。入浴を楽しめるよう、雰囲気づくりや言葉かけを工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に日中は活動し夜間に睡眠がとれるよう支援しているが、本人の希望に応じお昼寝、又ソファで寝たい方には体調を崩さないよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のファイルを作成し、定期的な診察の際に医師への相談をし、量などは職員が把握、管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や得意なもの、又 趣味など活かしながら役割作りに心がけ、意欲的な生活が出来よう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、気候に配慮しながら、買い物や散歩、屋外での作業など促し、習慣に繋がるよう支援している。	天候・体調に配慮しつつ近隣のスーパーへの買い物や散歩、畑作業などこれまでの外出習慣を繋げるよう配慮している。一人で外出したい、という利用者には安全を見極めた上で遠くから見守りながら支援している。	



グループホーム あおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際には直接本人が支払いができるよう支援している。また、家族とも相談しながら少額でも所持金を持つことによる認知症進行緩和を図っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話しやすい雰囲気作りや、季節に応じたハガキを出す支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけやテーブルの配置など利用者と相談しながら快適な雰囲気が作られるよう配慮している。	玄関には季節の生け花や鉢植えが飾っており、掃除が行き届いている。出来る限り窓を開け、外気とともに季節感を取り入れ、照明も明るくして開放的な雰囲気づくりに努めている。居間やフロアの壁面には利用者と一緒に作った日めくりや切り絵、高校の吹奏楽部の発表写真が飾られ、楽しめる環境を工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際のテーブルや居間では、畳スペースの活用やソファを用意し自由に使用できるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、仏壇などなじみの物を本人の居室に相談しながら配置し、安らげる自分の部屋作りが出来るよう支援しています。	居室には使い慣れたタンスや仏壇などがあり、安らげるよう工夫している。利用者本人の趣味嗜好を大切に、壁に切り絵や花の絵などを飾り本人が心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に配慮し居室の場所や設備を配置し、適宜、職員は居室での利用者の暮らしぶりを確認している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果 (2ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	
事業所名	
所在地	
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームあおぞらの理念を掲げ、意義や、社会的役割を確認し、話し合いにおいては具体的なケアについての統一を図っている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに参加している。日常的に散歩や買い物等に出かけ挨拶を地域の人たちと挨拶を交わしたり、地域の人が慰問に来てくれている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への認知症ケアの啓発に努めている。地域内の学校の実習の受け入れや訪問の受け入れをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では参加メンバーから意見、要望を率直に述べてもらい話し合いをしている。現在取り組んでいる内容においても報告や意見交換を行っている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行政に足を運び、疑問も含め担当者と話をして連携を深めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を話し合い、利用者が外出する雰囲気であれば声かけをしたりついていくなど自由な暮らしとなるよう支援している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等の場において、虐待防止について学び不適切なケアについて常に話し合い確認をしている。また、虐待を発見した時の対応についても話し合い確認している。		

グループホーム あおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに担当者からの説明やアドバイスをもらいながら利用者の支援に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に丁寧に説明を行い、同意を得るようにしている。また、一方的な通達にならないよう心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には運営推進会議時や訪問時などに意見が出やすい雰囲気づくりに気を配っている。出された意見においては会議時に話し合っている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけるとともに、決め事や方針の変更等においては会議時において皆で納得した上で決定している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も頻繁に現場で利用者や職員とコミュニケーションを図っている。また、今年度より職員の給与体系の整備を行い条件の向上に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には1ヶ月のOJTのプログラムを組み実践している。また、事業所外での研修への参加を積極的に促し報告書を全スタッフは閲覧できるよう整備している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所への見学等を通してケアの技術面を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用時や相談があった時には必ず本人に会い、心身の状態の把握に努めている。あまた、利用時には直接本人との話と通じて要望等を引き出すことに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族が困っていることや求めているものを話し合い理解し、グループホームでの対応できる範囲も含めて、話し合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提供できるサービスにおいては、迅速に対応し、外部のサービスが必要と思われる内容においては利用者・家族等と相談し柔軟なサービス提供に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員全員で共有しており、尊厳のある声かけやサービス提供の徹底を図っている。また、徹底事項を定め、常に守られているかどうか会議時に確認を行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に家族の思いを受け止め、また利用者の様子や事業所の方針を細かく伝えている。また、協力関係が築けるよう情報の共有に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人等との電話や訪問を支援したり、一人一人の生活習慣を大切に、つながりを継続できるよう支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の仲のよし悪しに配慮し、利用者が孤立してしまわないよう支援している。また、皆で楽しめる場面作りに職員が調整役となり支援している。		

グループホーム あおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい環境でも、これまでのケアが継続できるように情報の提供をおこない、きめ細かな連携に心がけている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からのお話を聞き、又 本人にも相談しながら最良の暮らしを検討している。意思の疎通の困難な方であっても表情や態度により思いを理解しようと努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から話を聞いたり、断片的な本人のお話より利用者の生活暦を考え、思いの理解に役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の共同生活で役割への促し、又その時の表情、態度より、性格、性質、心身状態をつかみ 本人の心身の状態を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や運営推進会議の度に認知症の方への関わり方について話し合い、日常での関わり方についても相談している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を記録し、特に利用者の思いを捉えた記録ができるよう心がけている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や買い物など柔軟な支援に心がけ、対応している。		

グループホーム あおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、支援に関する情報交換をしたり、ボランティアの方による活動やなじみの美容院へ行くなど、地域の人や場の力を活用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医院の他に診療科によっては適切に本人の希望の医療が受ける事ができるようにしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員により利用者の健康管理や状態変化について助言・対応を行っている。また、往診時には利用者の状態についての会議を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時は頻繁に病院へ見舞い、状況を常に把握し、家族とも状況について相談している。又 退院時には速やかな連携により施設での生活に役立て、退院後の診察(往診)などの依頼をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意思確認所を作成し、事業所ができること、家族が支援することなどを話し合っている。また、早期の段階で話し合うなど意見の統一を図っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着するまでの応急処置等について、ケースを想定し話し合いを行っている。また、応急手当講習テキストに基づいて職員は対応方法を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用方法など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア全般に本人の意思が反映されるように声かけや表情の確認をし、又言葉使いや態度が本人を傷つける事の無いよう配慮している。 会議等では尊厳について毎回話し合いが行われている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて、本人が選びやすいよう働きかけている。難聴の方には筆談にて意思の疎通を図る等、自己決定できる環境作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設でのイベントごとやボランティアの訪問は施設が予定を組んでいるが、参加の意思は本人の意思を尊重している。日常生活全般に、入浴や食事、散髪等であっても本人の意向に沿ったサービスが提供できるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容、服装、頭髪など身だしなみへの促しをし、他の利用者や職員に対して、良い意味での緊張感が保てるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑作業にて採れた農作物など使いながら、一人一人の好みにも配慮し準備、食事、片付けなど共同作業をしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認をし、水分、栄養バランス等を体調をみながら支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	理解力の低下した利用者さんには精神的な配慮をしながら口腔ケアをしている。		



グループホーム あおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心への配慮をしながらトイレでの排泄に努力しているが、リハビリパンツやパットを使い排泄が困難な方への安心感にも配慮している。また、定期的なトイレ誘導をすることにより、トイレで排泄できるよう支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事内容、水分補給量、歩行運動に配慮し健全な状態の維持をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	朝風呂や夜間入浴等本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴出来る様対応をしている。入浴中は介助だけでは無く、入浴が楽しいものとなるよう、昔話や思いを話しやすい雰囲気作りに努力している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に日中は活動し夜間に睡眠がとれるよう支援しているが、本人の希望に応じお昼寝、又ソファで寝たい方には体調を崩さないよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のファイルを作成し、定期的な診察の際に医師への相談をし、量などは職員が把握、管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や得意なもの、又 趣味など活かしながら役割作りに心がけ、意欲的な生活が出来よう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候、気候に配慮しながら、買い物や散歩、屋外での作業など促し、習慣に繋がるよう支援している。		

グループホーム あおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物に行く際には直接本人が支払いができるよう支援している。また、家族とも相談しながら少額でも所持金を持つことによる認知症進行緩和を図っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や友人に電話しやすい雰囲気作りや、季節に応じたハガキを出す支援を行っている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアの飾りつけやテーブルの配置など利用者と相談しながら快適な雰囲気が作られるよう配慮している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事の際のテーブルや居間では、畳スペースの活用やソファを用意し自由に使用できるようにしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>寝具やタンス、仏壇などなじみの物を本人の居室に相談しながら配置し、安らげる自分の部屋作りが出来るよう支援しています。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の状態に配慮し居室の場所や設備を配置し、適宜、職員は居室での利用者の暮らしぶりを確認している。</p>		